Loures

について

写真: CM Loures

ロウレス
リスボン（Lisboa）郊外に広がるロウレス（Loures）の一帯は、昔から「サロイア」（田舎）と呼ばれてきました。かつて付近にあった農園で、リスボンの町に供給する野菜や生鮮品が作られていたからです。

一帯が行楽地として注目されだした頃、貴族たちはこの地に屋敷を建てるようになりました。その例として、18世紀のコレイオ・モール館（「郵政大臣の館」の意）とそのキンタ（荘園）（Palácio e Quinta do Correio-Mor）や、キンタ・ド・コンヴェンテーニョ（Quinta do Conventinho）（「小修道院の荘園」の意）が今も残っています。キンタ・ド・コンヴェンテーニョは、現在、市立博物館となっています。

周辺の地域では、他にも重要な建築物が見られます。例えば、オディヴェラス（Odivelas）の教区教会（Igreja Matriz）は、13世紀に建設され、17世紀に再建されたものです。また、サント・アンタォン・ド・トジャル（Santo Antão do Tojal）には、18世紀の大司教館（Palácio dos Arcebispos）があります。大きな噴水がはめ込まれたそのファサードの正面では、毎年9月末になると、にぎやかな18世紀の祭りが開催されます。

また、ロウレス市の中にはワイン原産地管理呼称地域の1つであるブセラス（Bucelas）があり、すばらしく質の高い白ワインが生み出されています。このワインは、19世紀のナポレオンの侵入後、世界的に広く知られるようになりましたが、すでに16、17世紀にはシェイクスピアによって記されるところとなっています。その民俗的な伝統がすべて1つとなった行事として、毎年10月にはブドウの収穫祭とワインフェスティバル（Festa do Vinho e das Vindimas）が開催されています。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com